

ユリの秋栽培による開花状況

飯塚康博・北尾道好

平成6年10月2日から16日までの15日間、広島アジア競技大会が開催された。これを記念し、日本を代表する花としてユリを飾ることとした。秋に開花させるために冷凍抑制球を用い、系統進化園のユリ科のコーナーや鉢に植え付けたところ、目標とした9月下旬から11月上旬にかけて開花したので、その栽培管理、開花状況について報告する。

品種選定

配色や到花日数などを考慮し、オリエンタル系のカサブランカ（白）、アカプルコ（桃）、スカシユリ系のパルマ（黄）の3品種を選定した。

栽培管理状況

1. 球根の解凍

平成6年8月3日、-2℃で冷凍保存されたユリの球根を、購入後直ちに5℃の種子貯蔵庫に入れ、約16時間かけて解凍した。

2. 外気ならし

8月4日、外気ならしのために20℃の栽培温室に移動させたところ、2日後には芽が2、3cm伸びており、定植可能となった。

3. 植え付け

8月6日、系統進化園のユリ科の場所にカサブランカ約20球、パルマ約20球を植え付けた。残った球根およびアカプルコは鉢に植え、育苗温室で管理した。

4. 植え付け後の管理

ユリ科のコーナーには直射日光がよく当たるため、約80cmの高さに寒冷紗を張り、約40日間、50%の遮光を行った。

開花状況

カタログ値、開花状況は、表に示した。カタログ値は、球根を入手したサカタの営利栽培用カタログに記載されている南イタリア地方における試験結果であり、当園における到花日数は最も早かった株の日数である。

表 ユリの開花状況

品種名	カタログ値		開花状況	
	花つき*	到花日数	花つき*	到花日数
パルマ	4～6個	90日	1～4個	45日
アカプルコ	4～6	90	0～3	59
カサブランカ	4～6	90	4～6	84

* 1つの花茎につく花の数

パルマ、カサブランカは系統進化園と育苗温室の両方で栽培したが、育苗温室のカサブランカが多少開花が早かった以外は、ほとんど差がなかった。当園における到花日数が南イタリア地方における試験結果よりも短いのは、夏が比較的冷涼なイタリアと、夏が高温多湿な日本との気候の違いを反映しているようにも思われる。しかしカサブランカではその差は一週間程度であったのに対し、パルマではカタログ値よりも45日も早く開花してしまった。このように到花日数がカタログ値と大きく異なると、計画的な展示装飾が困難となるので、その原因は明らかにする必要があると思われる。

開花期間はパルマが1週間前後であったのに対し、アカプルコ、カサブランカは2、3週間であった。アカプルコ、カサブランカの開花期間がパルマに比べて長かったのは、開花時期がパルマより遅れ、比較的涼しい10月下旬であったからだと思われる。カサブランカの場合、1か月以上咲きつづけていた株もあった。ただし、アカプルコに関しては、つぼみが不良で花つきが悪い株が目立った。

